PENTAX®

ESPIO 80
QUARTZ DATE

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

このたびは、ペンタックスESPIO 80（エスピオ80）デートをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ80」は35ミリ広角から80ミリまでのズームを備え、フィルム途中でのパノラマ/標準撮影の切り替え、離れたところから撮影できるリモコンなど、いろいろな機能を搭載した薄型コンパクトカメラです。

- 説明文中の　　内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真・イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

54、55ページに切り取って使えるクイックガイドがありますので、ご利用ください。

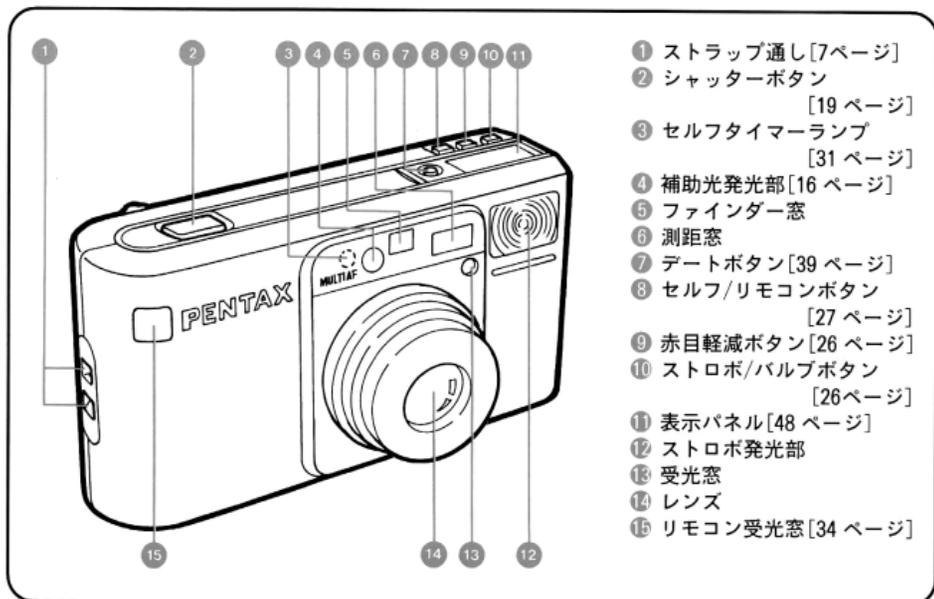
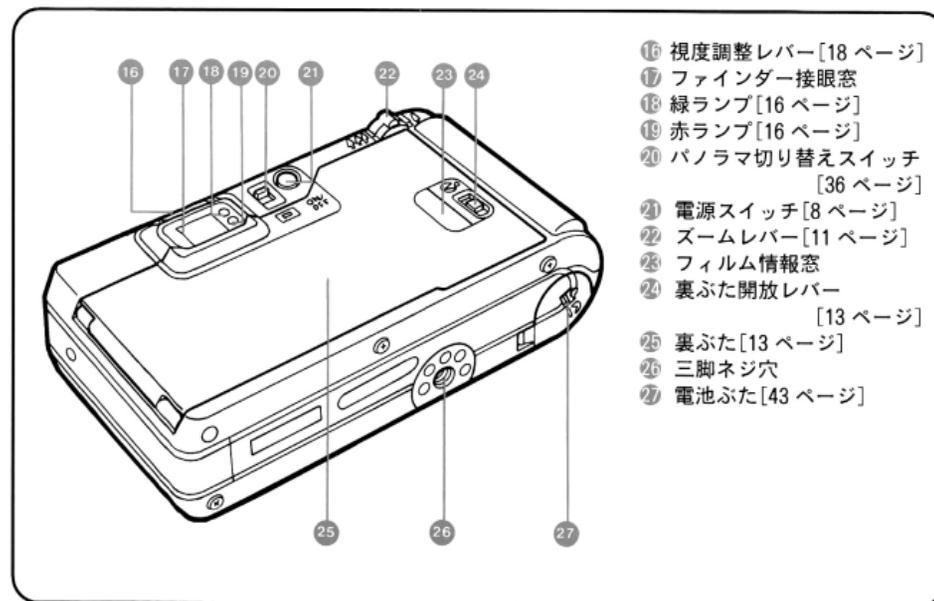
記号について

操作の方向	⟵
自動的に動きます	⟷
注目してください	◌
点灯します	☼
点滅します	⁘
正しい	○
間違い	×

各部の名称

① ストラップ通し[7ページ]
② シャッターボタン[19 ページ]
③ セルフタイマーランプ[31 ページ]
④ 補助光発光部[16 ページ]
⑤ ファインダー窓
⑥ 測距窓
⑦ デートボタン[39 ページ]
⑧ セルフ/リモコンボタン[27 ページ]
⑨ 赤目軽減ボタン[26 ページ]
⑩ ストロボ/バルブボタン[26ページ]
⑪ 表示パネル[48 ページ]
⑫ ストロボ発光部
⑬ 受光窓
⑭ レンズ
⑮ リモコン受光窓[34 ページ]

各部の名称（背面）

⑯ 視度調整レバー[18 ページ]
⑰ ファインダー接眼窓
⑱ 緑ランプ[16 ページ]
⑲ 赤ランプ[16 ページ]
⑳ パノラマ切り替えスイッチ[36 ページ]
㉑ 電源スイッチ[8 ページ]
㉒ ズームレバー[11 ページ]
㉓ フィルム情報窓
㉔ 裏ぶた開放レバー[13 ページ]
㉕ 裏ぶた[13 ページ]
㉖ 三脚ネジ穴
㉗ 電池ぶた[43 ページ]

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、44ページにある下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

⚠ 警告

このマークの内容を守らなかった場合、使用者が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

⚠ 注意

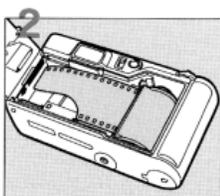
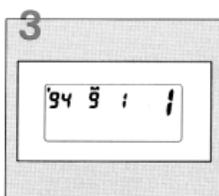
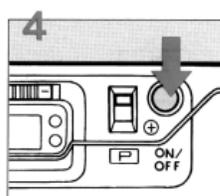
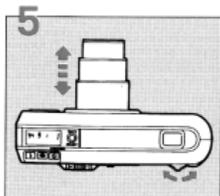
このマークの内容を守らなかった場合、使用者が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

⃠ は、禁止事項を表わすマークです。

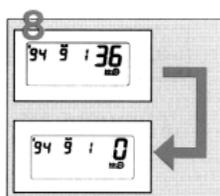
⚠ は、注意を促すためのマークです。

目次

使い方は簡単です。[通常の撮影手順]

裏ぶたを開けます。
[13 ページ]

フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[13 ページ]

自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[14 ページ]

電源スイッチを押して電源を ON にします。
[8ページ]

ファインダーをのぞき、ズームレバーを回して構図を決めます。
[11 ページ]

写したいものにオートフォーカスフレームを合わせます。[19 ページ]

シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります[20 ページ]

フィルムが終わると自動的に巻き戻します。
[24 ページ]

こんな写真を撮るには？

ストロボ関係

ズーミング関係

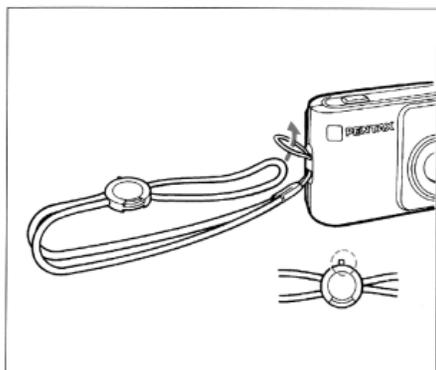
人物撮影関係

風景撮影関係

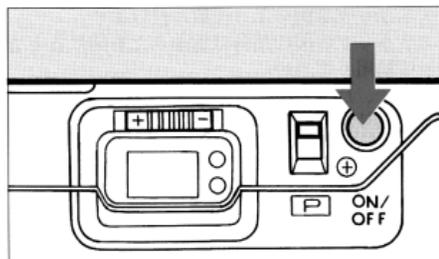
その他

ソフトケース

撮影前の準備をしましょう

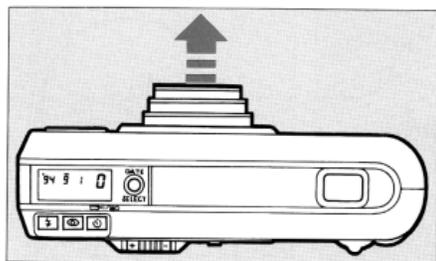
ケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。[電源スイッチについては、8ページをご覧ください。]
ソフトケースには、リモコンを収納するためのポケットがあります。

ストラップ

ストラップを図のように取り付けます。
ストラップの図の部分は電池ぶたを開けるときにご利用ください。
別売で、長さの短いハンドストラップもあります。取り付け方法は付属のストラップと同じです。

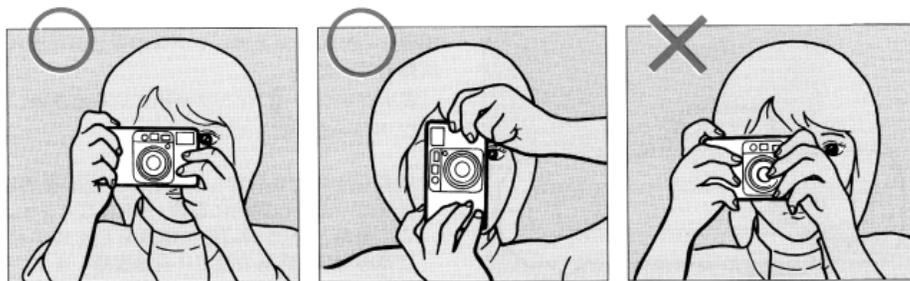
電源スイッチの確認をしましょう

スイッチを押すと電源が入り[電源ON]、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。
もう一度押すと電源が切れます[電源OFF]。
使用しないときは、必ずOFFにしてください。

3V リチウム電池[CR123A相当品]1本を使用します。カメラ本体とデート機構に共用しますので、電池消耗時の交換以外は、電池を抜かないでください。

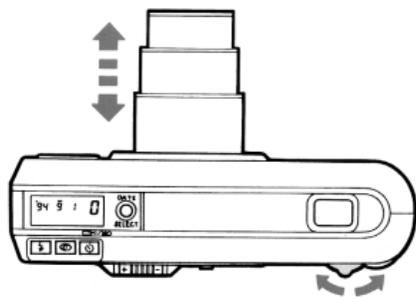
● 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。

電池の確認をしましょう

電源をONにしたとき、レンズが少し前に出れば撮影できます。
［表示パネルに マークが出ているときは、42ページをご覧ください。］

※電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。この場合、約60分以内に電源をONにすれば電源OFF直前の設定に自動復帰します。
※低温では、一時的に電池の性能が低下することがありますが、常温に戻れば使用できます。
※海外旅行・寒冷地での撮影や写真をたくさん撮るときは、予備電池をご用意ください。

カメラの構え方

撮影するときは、カメラを両手でしっかり持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。［強く押すとカメラが動いて、ぶれやすくなります。］
木や建物・テーブルなどを利用して、からだやカメラを安定させるのも良い方法です。
カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。

- ズームレンズは、ズーミングによって前後に移動しますから持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさぐと、ピンボケ・露出不足・露出オーバーなどの原因になります。

35～80mmのズーミング

ズームレバーを[♠]側に回すと、遠くのものを大きく写せる80mm側へ、[♠♠♠]側に回すと広い範囲を写せる35mm広角側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの構図になったところで止めて撮影してください。
※ 焦点距離を80mm側にすると手ぶれを起こしやすくなりますので、比較的手ぶれをしにくいISO400の使用をお勧めします。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きに置かないでください。レンズに無理な力が加わります。

フィルムを入れて撮影しましょう

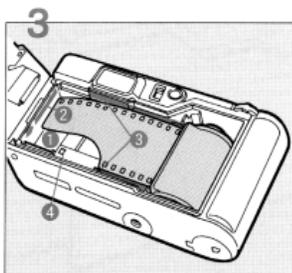
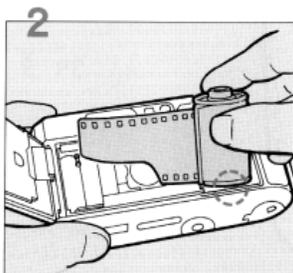
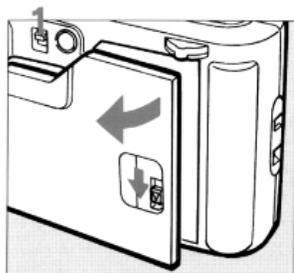
フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから、入れましょう。

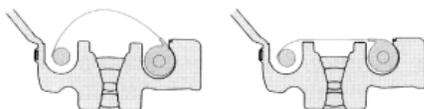
フィルム感度について

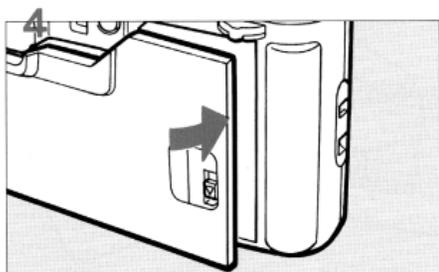
フィルム感度自動セット
このカメラでは、フィルムを入れるだけでフィルム感度が自動的にセットされます。
[ISO25～3200までのフィルムが使えます。]

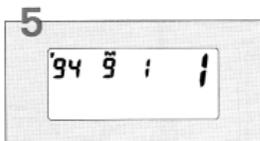
※ フィルム感度は、手ぶれ防止やストロボ撮影に有利なISO400の使用をお勧めします。

- ISO800以上の高感度DXフィルムは室内や暗い所での撮影にご利用ください。
- ほとんどのフィルムが、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルムですが、DX以外のフィルムではフィルム感度が25にセットされてしまいますので使用できません。

2 フィルムを入れましょう［電源をOFFにします。］

1. **裏ぶたを開ける**
図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。
2. **フィルムパトローネを入れる**
パトローネ下側を先に入れると簡単に入ります。
3. **フィルムの先端を合わせます**
フィルムを少し引き出して ❶ のローラーの上に乗せ、❷ のフィルム先端マークに合わせます。

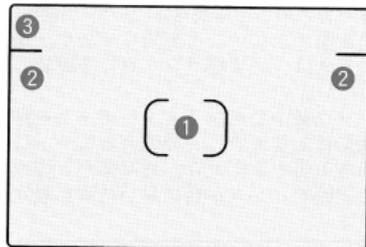
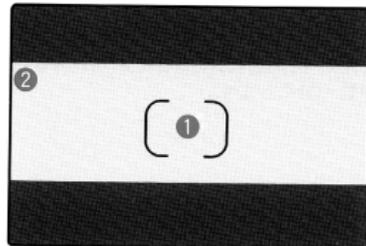
- フィルムが ❸ のガイドレールの間に入っていることを必ず確認してください。
- フィルム検知部 ❹ にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。

×フィルムのたるみあり

○フィルムのたるみなし

4. **裏ぶたを閉じる**
裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。

※ フィルムが入っていなくても、裏ぶたを閉じるとモーターは約1～2秒間回ります。

5. **フィルム巻き上げの確認**
上図のように、フィルムカウンターに 1 が出て自動的に止まります。必ずフィルムカウンターが 1 になっていることを確認してください。1 が出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。フィルムを入れ直してください。フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに E が点滅して知らせます。

※ フィルムカウンターは、電源をOFFにしても表示されます。

←前ページのように、フィルムはたるみがないように入れてください。
- フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムをパトローネに少し押し戻します。
- フィルム先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

3 ファインダー内表示

<標準撮影>

<パノラマ撮影>

ファインダー内の表示が見えにくいときは、視度調整[18ページ参照]を先に行なってください。

ファインダー内の表示を覚えましょう。

標準撮影

❶ **オートフォーカスフレーム**

❷ **近距離視野補正枠**

標準撮影で撮影する距離が 1m付近より近距離では、近距離視野補正枠より下に写したいものを入れてください。

❸ **視野枠**

標準撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

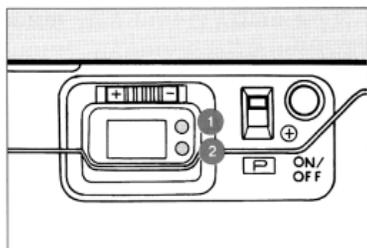
パノラマ撮影

❶ **オートフォーカスフレーム**

❷ **視野枠**

パノラマ撮影で写る範囲です。写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

- **サービスサイズのカラープリント[パノラマプリントを含む]では、画面周辺の物がプリントされないことがあります。構図に少し余裕を持たせてください。**

ランプ表示と撮影距離 [電源を ON にします]

シャッターボタンを少し押して図の ❶ ❷ のランプ表示を確認して撮影しましょう。

❶ **緑ランプ**	点灯[撮影可能・フォーカスロック]
	点滅[測距不能警告]
❷ **赤ランプ**	点灯[ストロボ発光]
	点滅[ストロボ充電中]

撮影距離[標準/パノラマ]

- **撮影は 0.5m～∞ [無限遠] の範囲で可能です。**
- **0.5mより近い距離ではピントが合いません。**

※ 緑ランプ点滅は、撮影距離が近すぎるかオートフォーカスの苦手な被写体[21ページ参照]のため測距できないことを知らせます。撮影するときは、必ず緑ランプ点灯を確認してください。
緑ランプ点滅中でもシャッターボタンを押せば撮影はできます。この場合のピントはそのときの明るさにより、被写体がどの位置でも比較的ピントが合い易い位置に設定されます。

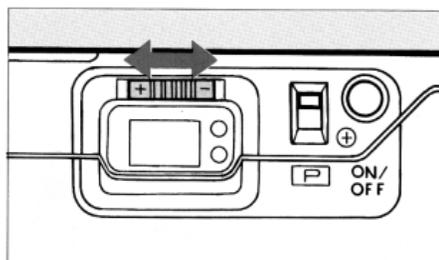
補助光について

暗いところやコントラストの少ない被写体ではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなときにシャッターボタンを少し押すと、赤色光（補助光）を自動的に投光してオートフォーカスを作動し易くします。

通常の撮影モード

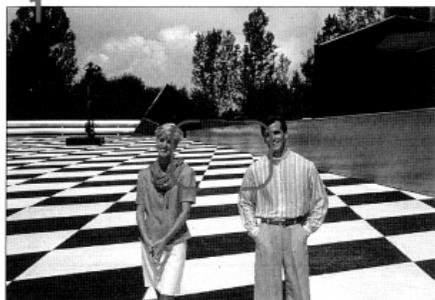
電源をONにすると、通常の撮影モードになります。
この撮影モードでは被写体が暗いときや逆光のときに、自動的にストロボが発光します。

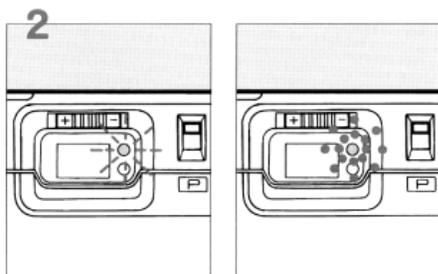
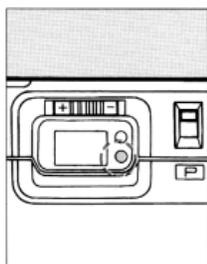
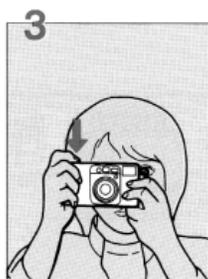
- 他の表示のときは、電源をOFFにしてからONにすると通常の撮影モードに戻ります。

※暗い所でのストロボ自動発光時のシャッタースピードは約1/30［35mm側］～約1/60秒［80mm側］です。［ISO400フィルム使用時］

視度調整

カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレームの線が最もはっきり見える位置に調節します。

- 視度調整は、ご使用前に必ず行なってください。

撮影しましょう［撮影距離は0.5m～∞の範囲です］

1. **構図を決める**
ズームレバーを使って構図を決め、画面中央の［ ］オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。

- オートフォーカスフレームの幅は、焦点距離が35mmの場合のピントの合う範囲の目安です。焦点距離が80mm側になると、この幅は徐々に広がり、80mmでは、この幅は約2倍になります。
- 測距窓が汚れていると、正しくピント合わせができなくなりますので、ご注意ください。

2. **ランプ表示の確認**
シャッターボタンを少し押し、ピントが合うと緑ランプが点灯します。
緑ランプが点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。
❶ 撮影距離が近すぎる（ランプが点灯する位置まで離れてください）。
❷ オートフォーカスが苦手な被写体の場合［21ページ参照］

3. **撮影**
さらにシャッターボタンを押すと撮影できます。
［撮影後フィルムは1枚巻かれます。］

※ シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。
※ 一度ピントを合わせてから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。
※ ズーミング中は、シャッターが切れません。

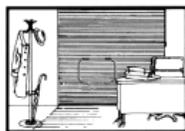
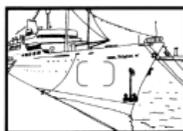
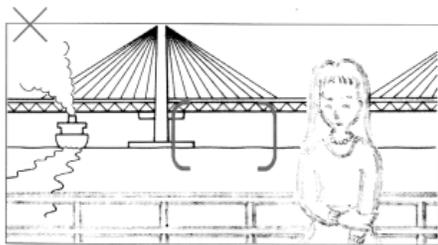
ストロボ自動発光
被写体が暗いときや逆光のときには、ストロボが自動発光します。赤ランプの点灯は、ストロボが発光することを知らせます。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中でシャッターが切れませんので、赤ランプの点灯を確認してから撮影してください。
このカメラには、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは26ページおよび50ページをご覧ください。

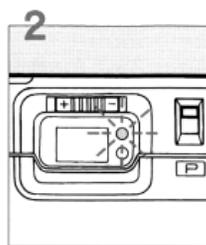
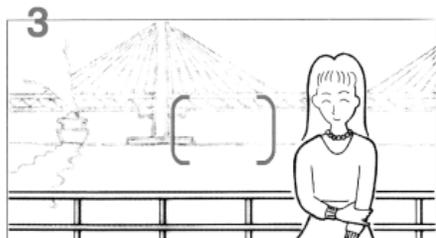
ストロボソフト発光
高感度フィルムでのストロボ撮影で、撮影距離が徐々に近くなった場合、ストロボの発光量を段階的に減らし、より近距離までのストロボ撮影を可能にする機能です。
※ ストロボを連続して使うと、電池が多少温かくなることがありますが、異常ではありません。

ストロボ撮影できる距離［ネガカラーフィルム使用時］

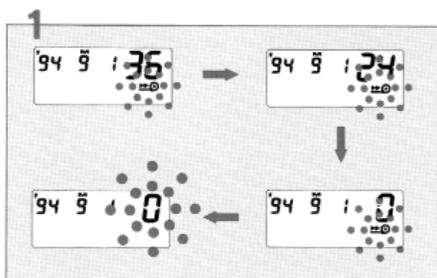
レンズ ＼ ISO	100	200	400
35mm（♠♠♠）	0.5～4.5m	0.5～6.3m	0.5～9.0m
80mm（♠）	0.5～2.2m	0.5～3.1m	0.5～4.3m

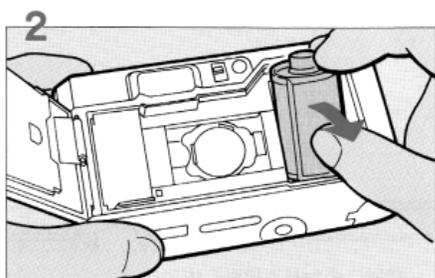
オートフォーカスの苦手な被写体
オートフォーカス機構は、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるピントを合わせ易いものにフォーカスロックをしてください。[22ページ参照]

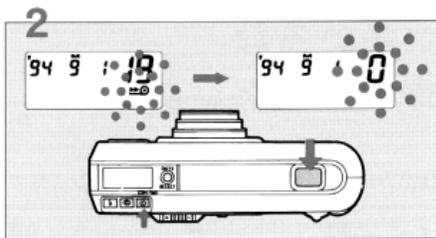
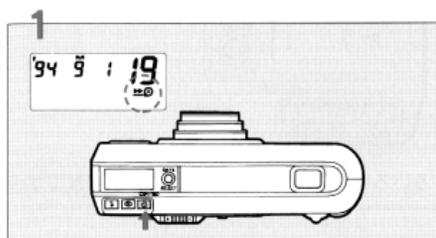
a）〔〕オートフォーカスフレームに白い壁や青空などの極端にコントラスト（明暗差）の低い被写体がある場合。
b）〔〕オートフォーカスフレームに光を反射しにくい被写体がある場合。
c） 非常に速い速度で移動している被写体。
d）〔〕オートフォーカスフレームに横線のみの被写体や細かな模様の被写体がある場合。
e） 遠近のものが〔〕オートフォーカスフレームの中で同時に存在する場合。
f） 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい被写体）。

8 フォーカスロック撮影

こんなときは注意しましょう！
このまま撮影すると、図のように人物にはピントが合わず、後ろに合ってしまいます。
ピントを合わせたいものがファインダー中央の〔〕から外れているときは、右の操作説明に従ってフォーカスロック撮影をしましょう。
[フォーカスロックとは、撮影前にピントを合わせて、それを一時的に固定することです。]

1. 〔〕**オートフォーカスフレームを合わせる**
ピントを合わせたいものに〔〕を合わせます。
2. **フォーカスロック［緑ランプ点灯］**
シャッターボタンを少し押すと緑ランプが点灯して、ピントと露出が固定されます。

3. **構図に合わせて撮影します**
シャッターボタンを少し押したまま写したい構図にして、シャッターを切ります。

※ フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

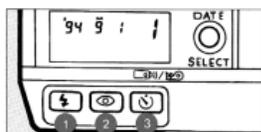
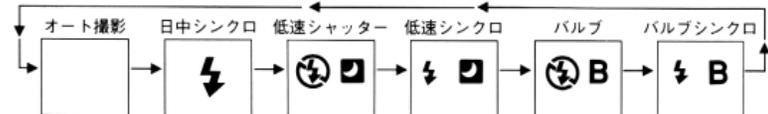
フィルムを取り出しましょう［フィルムは直射日光が当たらない所で取り出しましょう。］

1. **フィルムの巻き戻し**
フィルムの最後まで撮り終わると、自動的に巻き戻しが始まります。
巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように［0］が点滅して知らせます。

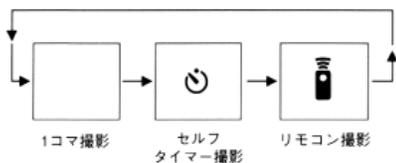
※ 巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。
※ 巻き戻し中は、撮影枚数が逆算表示されます。
※ 巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、パトローネに巻き込まれます。

2. **フィルムの取り出し**
裏ぶたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

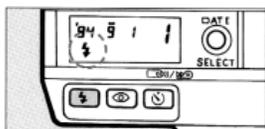
- フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。
- 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。
- 規定枚数になっても、まだ撮影が続けられるときは、フィルムが最後まで進んでから巻き戻しが行なわれます。

フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

1. 電源をONにして、セルフ/リモコンボタンを3秒以上押し続けると、表示パネルに ⏩⊙ マークが表れて、途中巻き戻しモードになります。
2. セルフ/リモコンボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり 0 が点滅して知らせます。

いろいろな撮影をしましょう。

露出方式［❶ ϟ ストロボ/バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。］

- ❶❸ のボタンは、1回ずつ押して合わせます。
- 通常の撮影では、図のように「オート撮影で1コマ撮影」に合わせてご使用ください。電源スイッチをOFFからONにするとこのモードになります。
- 露出方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に ❶ のボタンを押すと「オート撮影」に戻ります。
- ❷ の赤目軽減ボタン 👁 を押して表示パネルに 👁 を表示させておくと、ストロボが2度発光します。シャッターが切れる直前に最初のストロボ発光［小光量］が行なわれ、瞳径を小さくしてからストロボ撮影をするので、目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。

撮影方式［図の❸ ⏲ セルフ/リモコンボタンを押すと、「撮影の方式」を選ぶことができます。］

※撮影方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に❸のボタンを押すと「1コマ撮影」に戻ります。
※❸ ⏲ セルフ/リモコンボタンを3秒以上押し続けると、途中巻き戻しモードになります。［25ページ参照］

日中シンクロ撮影

ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに ⚡ 表示を出します。明るい所でも暗い所でもストロボ撮影になります。
逆光以外でも被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると、陰の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行ないたいときにもご使用ください。

- シャッターボタンを少し押して、赤ランプ点灯を確認してから撮影してください。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中です。
- 日中、ストロボを補助光として使用する場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。［20ページ参照］

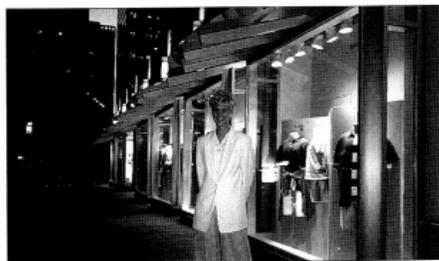
ストロボなし

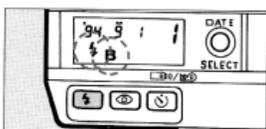
ストロボ使用　日中シンクロ

低速シャッター撮影・低速シンクロ撮影

ストロボOFF
[発光停止]
ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに 表示を出して撮影します。
暗い所でもストロボを発光させないで、約2秒までの低速シャッターで撮影できます。ストロボが使えない場所[劇場、美術館など]での撮影にご利用ください。また、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真も楽しめます。

● 暗い所ではシャッター速度が遅くなるので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。

低速シンクロ撮影[ストロボ使用]
ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに を表示させると、低速シンクロ撮影になります。
暗い背景で人物撮影をするとき、人物にはストロボ光があたり、背景も遅いシャッタースピードでバランス良く写せます。

バルブ撮影・バルブシンクロ撮影

バルブ撮影
ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに B 表示を出して撮影します。
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて最長5分までの長時間露出ができます。花火や夜景の撮影にご利用いただけます。撮影時は、カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。

バルブシンクロ撮影
ストロボ/バルブボタンを押し、表示パネルに B の表示を出して撮影します。バルブシンクロ撮影ではストロボが使えますので、夜景などを背景にした人物撮影ができます。

バルブ撮影
ISO100で約4秒の撮影

セルフタイマー撮影

撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。撮影時は三脚などを使用してください。
セルフ/リモコンボタンを押して、表示パネルに 表示を出して撮影します。

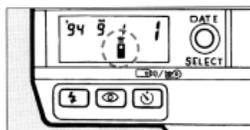
写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れます。
セルフタイマーの作動中は、表示パネルの の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

- カメラ前面に立ってセルフタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますので、ご注意ください。
- セルフタイマーをスタートさせた後に中止したいときは、シャッターボタン以外の操作ボタンを押してください。
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了［赤ランプ点灯］を確認してから、セルフタイマーを作動させてください。
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影をした場合、シャッター速度は約1/2秒になります。

リモコン撮影

リモコンを使うと、カメラから離れた所から好みのタイミングで撮影することができます。リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

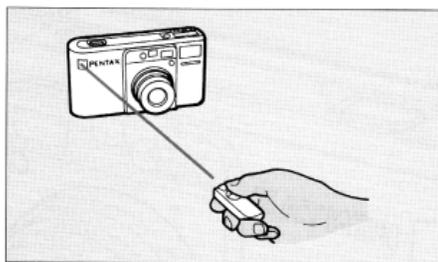
※ リモコン撮影するときは、三脚などをご利用ください。
※ リモコン撮影時もカメラ側の各露出モードとの組み合わせによる撮影ができます。ただし、撮影方式は、「1コマ」撮影だけとなり、「セルフタイマー撮影」は使用できません。
※ バルブ撮影のときは、リモコンのシャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。［最長約5分］

カメラのセルフ/リモコンボタンを押して、表示パネルに を出します。

リモコン各部名称

ランプの点滅

撮影モードをリモコン撮影モードにするとカメラ前面のセルフタイマーランプがゆっくり点滅し、リモコン撮影ができることを知らせます。

※ リモコン撮影モードのまま、約5分間放置すると、自動的に電源OFFになります。再びご使用になる場合は、電源スイッチを入れ直してください。

※ このとき、カメラのシャッターボタンを押すと通常の1コマ撮影になります。

撮影

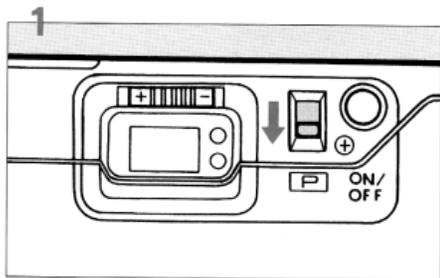
ファインダーで構図を決め、オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。
カメラから離れてリモコン受光窓にリモコン投光部を向け、リモコンのシャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが3秒間早い点滅をした後シャッターが切れます。

※ リモコン撮影時のフォーカスロックはできませんので、リモコンのシャッターボタンを押したときのオートフォーカスフレームに合っているものに、ピントが合います。

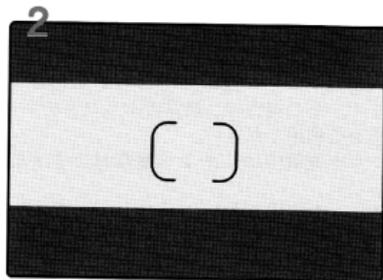
リモコン撮影のできる距離
カメラ前面受光窓の真正面から約5m以内
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。その場合は、通常のセルフタイマー撮影をご利用ください。
- ストロボ充電中はリモコン操作はできません。

※ リモコンを使用しないときは、ソフトケースのポケットに入れておくと便利です。[6ページ参照]

リモコン用電池の寿命
約30,000回送信することができます。電池の交換は最寄りのペンタックスサービスセンターにご用命ください。[有料]

パノラマ撮影

このカメラでは、撮影途中でも自由にパノラマと標準撮影とを切り替えることができます。パノラマ撮影ではフィルム上で横長に写りますので、パノラマプリントにするとダイナミックな写真が楽しめます。

1. **パノラマ撮影に切り替えます**
   パノラマ切り替えスイッチを P に合わせるとパノラマ撮影モードになります。

※ パノラマに切り替えると、ファインダー内がパノラマ用に横長になります。

2. **撮影します**
   パノラマの視野枠内に写したいものを入れて撮影してください。

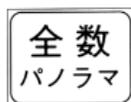
- 1mより近距離でのパノラマ撮影は、ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲の差が大きくなりますので、お勧めできません。

赤線は日付や時刻の写し込まれる位置

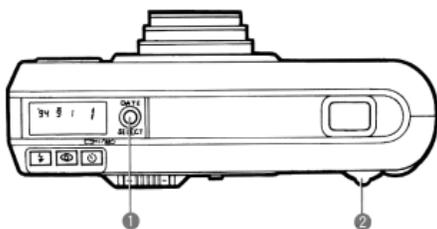
パノラマデートについて
標準撮影と同様にパノラマ撮影でも画面内右下に日付や時刻を写し込むことができます。使い方は標準撮影の場合と同じですので、「デートの使い方」39ページをご覧ください。
標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行なわれます。

パノラマプリントについて
パノラマモードで撮影されたフィルムの現像/プリントをご依頼になるときは、必ず付属のパノラマシールをフィルム［パトローネ］に貼り、パノラマプリントとご指定ください。

● パノラマと標準撮影を途中で切り替えて撮影した場合→ 混在 ハノラマ/標準

● フィルム全数をすべてパノラマで撮影した場合→ 全数 パノラマ

※ パノラマモードで撮影した場合、通常の同時プリントに比べ日数、料金がかかります。詳しくは、お店でおたずねください。
※ パノラマ撮影では、図のように標準撮影のフィルム1コマ分の上下をカットするだけですから撮影枚数は、標準撮影のときと同じです。

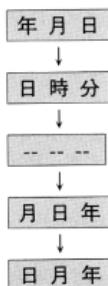
※ パノラマでは、フィルム上に約13mm×36mmの大きさで画像を写し込み、プリント段階では約12mm×35mmの範囲のプリントを行ないます。ただし、この範囲はズーミング位置によって多少違います。
※ パノラマプリントは89×254mmのサイズにプリントされます。これは標準撮影されたフィルムを六ツ切りサイズに引き伸ばしたものとほぼ同じ倍率になります。

デートの使い方

❶ DATE　：切り替えボタン
❷ ズームレバー　：調整レバー

このカメラは、2030年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、製品出荷時にほぼ正しくセットしてあります。

モードの切り替え

❶の DATE ボタンを指で押して、希望の表示を出します。

※ 日付や時刻を写し込みたくない場合は、------ に合わせます。
※ デート表示窓の M は「月」の位置を示しています。
※ 電源がOFFでは、モードの切り替えはできません。

日付や時刻の修正

1. ❶の DATE ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 が点滅します。
2. ❶の DATE ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。
3. ❷のズームレバーを左右に回すと点滅している数値を変更することができます。右に回すと数値は進み、左に回すと戻ります。回し続けると約1秒後からは続けて変化します。
4. 修正後は、❶の DATE ボタンを押して、「年月日」表示に戻して点滅をなくします。

※「分」表示の点滅状態で、DATE ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

※ 電源がOFFでは、日付や時刻の修正はできません。

※ 修正中[点滅表示中]は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。

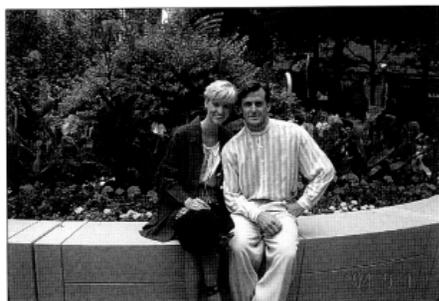
※ 日付や時刻は、次のように表示されます。
年＝94〜30 [1994〜2030]
月＝1〜12　日＝1〜31
時＝0〜23　分＝00〜59

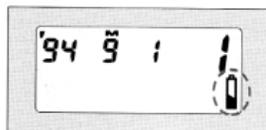
※ 電池交換を行なうと、デートは「94年1月1日」にリセットされ、写し込み禁止 -- -- -- モードに戻ります。

※ 電池交換直後の修正では、❶の DATE ボタンを3秒間押さなくても「年月日」の「年」とズームレバー表示 が点滅し、修正モードになります。

デートの写し込みについて
写し込みたい日付や時刻を選んで表示窓に出しておけば、シャッターを切るごとに写し込まれます。

※「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。
※ 標準デートとパノラマデートの切り替えは、パノラマ切り替えスイッチのセットにより自動的に行われます。

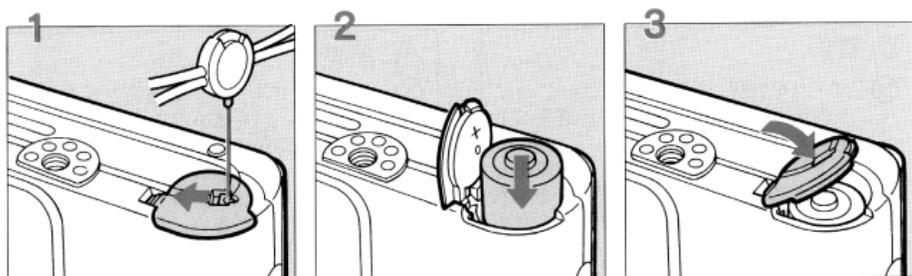
- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい被写体が来ると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものが来ないようにしましょう。
- 規定枚数を越えたコマでは、デートが正しく写し込まれない場合があります。

※この写真の数字はハメコミ合成です。

電池の消耗警告

電池が消耗してくると表示パネルに図の マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。 が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

撮影できるフィルム本数［24枚撮り］
通常の撮影モードでストロボの使用率を50%にした場合　　約15本
［CR123A電池・当社試験条件による］

電池を交換するときの注意
1. 電池の交換は、電源をOFFにして行なってください。
2. 電池は、デート用電源と共用です。交換後は日付および時刻の修正を行ってください。［修正は40ページをご覧ください。］

※ フィルム枚数は電池を交換しても、そのまま記憶されています。

電池の交換［電源を OFF にします］

1. **電池ぶたを開けます**
   ストラップのピンを利用して電池ぶたのロックを矢印方向に引いて電池ぶたを開けます。
2. **電池を入れます**
   電池ぶたの＋－表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

   使用電池［3 Vリチウム電池1本］
   CR123A相当品
3. **電池ぶたを閉めます**
   電池ぶたを矢印方向に押します。
   電池ぶたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

- **電池が正しく入っている場合は、電池ぶたを取り付けたとき、ズームレンズが少し動きます。**
- **電池ぶたを開けると、デートが「94 年 1 月 1 日」にリセットされ、写し込み禁止 -- -- -- になります。**
  ［修正は 40 ページをご覧ください。］

カメラを安全にお使いいただくために (2)

⚠ 警告

- ⃠ カメラを分解しないでください。カメラ内部には高電圧部があり、感電の危険があります。
- ⃠ 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ⃠ ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- ⃠ 太陽を直接見ないでください。長時間見ていると目を痛めることがあります。
- ⃠ カメラを水に濡らさないでください。感電の危険があります。
- ⚠ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- ⃠ 目の近くでストロボを発光させないでください。目を痛めることがあります。特に、乳幼児にはご注意ください。
- ⃠ 電池をショートさせたり、火の中に入れないでください。また、分解や充電をしないでください。破裂・発火の恐れがあります。
- ⚠ カメラ内の電池が発熱・発煙を起こしたときは、速やかに電池を取り出してください。この場合、やけどに十分ご注意ください。

取り扱い上の注意

・汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
・高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでご注意ください。
・防虫剤や薬品を扱う所は避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い所に保管してください。
・このカメラは防水カメラではありませんので、雨水などが直接かかる所では使用できません。
・強い震動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの震動は、クッションなどを入れて保護してください。

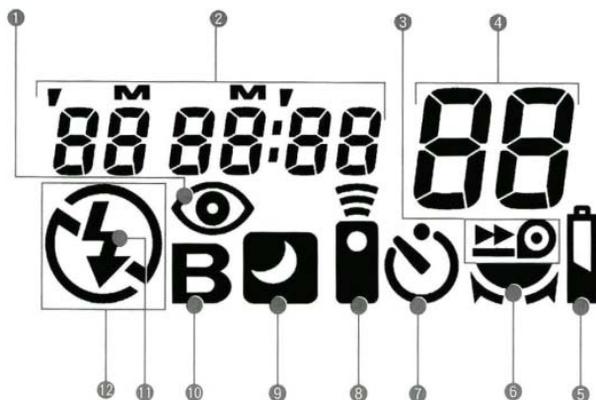
・レンズ、ファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
・業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。
・高性能を保つため、1〜2年毎に定期点検をしてください。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをしてください。
・カメラの使用温度範囲は－10℃〜50℃です。
・急激な温度変化を与えると、カメラの内外に水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
・ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。

こんなときは？［詳しくは、各ページをご覧ください。］

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： ● 電源スイッチがOFFになっていませんか。スイッチをONにしてください。［8ページ］ ● 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。［42ページ］ ● 表示窓に 0 が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。［24ページ］
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： ● ピントを合わせたいものにオートフォーカスフレームを合わせて撮影してください。［19ページ］ ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。［10ページ］ ● 測距窓が汚れていませんか。［19ページ］
症状3：ズームレンズが勝手に収納された。 ［電源がひとりでに切れた］	原因・対処3： ● 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にOFFになります。［9ページ］ ● リモコン使用時は、放置後約5分間たつと、自動的にOFFになります。［33ページ］

症状	原因・対処
症状 4 ：リモコンによる操作が出来ない。	原因・対処 4 ： ● リモコンが作動するのは、カメラの正面で約 5m です。この範囲内でリモコンを操作してください。[35 ページ] ● 逆光時はリモコンが作動しないことがあります。[35 ページ] ● ストロボ充電中。充電が完了するまで待ってください。[35 ページ] ● リモコンの電池が消耗している。[35ページ]
症状 5 ：暗くないのにストロボが発光する。	原因・対処 5 ： ● 逆光のときにもストロボが自動発光します。[20 ページ] ● 日中シンクロ撮影になっている。[28ページ]
症状 6 ：表示パネルに H や U などの表示がでる。	原因・対処 6 ： ● ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれますが、度々出る場合には故障の可能性があります。

表示パネル

各部の名称

液晶表示[LCD]について

- 約 60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

ストロボ撮影可能距離と赤目現象

ISO100、200、400 以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲[ネガカラーフィルム使用時]

ISO / レンズ	25	50	800	1600	3200
35mm(♦♦♦)	0.5～2.3m	0.5～3.2m	0.5～12.7m	0.5～18.0m	0.6*～25.4m
80mm(♦)	0.5～1.1m	0.5～1.5m	0.5～6.1m	0.5～8.7m	0.5～12.2m

＊高感度のため近距離では露出オーバーになることがあります。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

アフターサービスについて

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中[ご購入後1年間]は保証書[販売店印および購入年月日が記入されているもの]をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社各サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。運賃諸掛りについてもお客様にご負担願います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口でお手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行しております。[保証期間中のみ有効]

主な仕様

形式……ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ[デート付き]
使用フィルム……35mmDXフィルム専用[135パトローネ入り] ISO25〜3200自動感度セット[1EVステップ] DX以外＝ISO25固定
画面サイズ……24×36mm[パノラマ撮影時は13×36mm]
フィルム入れ……オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ……自動巻き上げ式
巻き戻し……フィルム終了時自動巻き戻し式[巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒]巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数……自動復元順算式、巻き戻しに連動[減算]
外部表示……表示パネルにLCD液晶表示
レンズ……ペンタックス35〜80mmF4.1〜8.7電動ズームレンズ 6群7枚 画角63°〜30.5°
ピント合わせ……位相差検出式5点測距方式、フォーカスロック付き、測距範囲＝0.5m〜∞[無限遠][最大倍率約1/5.4×]、補助光あり
ズーミング……電動式
シャッター……プログラムAE電子式シャッター＝約1/400〜2秒、バルブ[1/2秒〜5分、電磁レリーズ式
セルフタイマー……電子式赤ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能
ファインダー……実像式ズームファインダー、視野率83%、倍率0.42×[35mm側] 0.85×[80mm側] 視度調整付き −3〜＋1D[ディオプトリー]、オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠[標準撮影用]、パノラマ視野枠、緑ランプ点灯：撮影可能・点滅：測距不能警告、赤ランプ点灯：ストロボ発光・点滅：ストロボ充電中

露出……………………プログラム式自動露出（マルチ測光）
露出連動範囲[ISO100]　オート、日中シンクロ時＝EV9.5～EV17[35mm 側]　EV12～EV17.5[80mm 側]　低速シャッター撮影時＝EV3.5～17[35mm 側]　EV5.5～17.5[80mm 側]　逆光時自動露出補正可
露出計スイッチ………シャッターボタン
ストロボ………………オートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート＝低輝度、逆光時自動発光、ストロボON＝日中シンクロ/低速シンクロ[2秒まで使用可能]、ストロボOFF＝発光停止、バルブシンクロ＝1/2秒～5分、ストロボソフト発光機能付き
ストロボ撮影範囲……[ISO100使用時] 35mm 側＝0.5～4.5m、80mm 側＝0.5～2.2m
ストロボ充電時間……約5秒 [当社試験条件による]
リモコン………………赤外線リモートコントロール、リモコンシャッターボタン押しで3秒後撮影、作動距離＝カメラ前面5m以内
リモコン電源…………リチウム電池[CR1620] 1個[サービスセンター交換]
リモコン大きさ
　質量[重さ]……22.0[幅]×50.0[長]×9.5[厚]mm　9g [電池含む]
電源……………………3Vリチウム電池[CR123A相当品]1本使用
撮影可能本数…………24枚撮りフィルム使用時 約15本[ストロボ50%使用、当社試験条件による]
電池消耗警告…………表示パネルに ▯ が点灯、点滅時シャッターロック
デート機構……………クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー[西暦2030年まで、閏年は自動修正]、パノラマ時写し込み可能
データ写し込み方法…フィルム前面からの写し込み
データの種類…………①年・月・日　②日・時・分　③-- -- --[データ写し込み無し]　④月・日・年　⑤日・月・年
大きさ・質量[重さ]…124.0[幅]×65.0[高さ]×33.5[厚み]mm　210g [電池別]
付属品…………………ストラップ、ソフトケース、リモコン

PENTAX ESPIO80 クイックガイド

クイックガイド（このページは、切り取ってソフトケースなどに入れてお使いください。）こんな写真を撮りたいと思ったときに、下の表示を出すだけで簡単に撮影ができます。

⚡ ボタン

オート
最も一般的なモードです。暗い所や逆光では自動的にストロボが発光します。

⚡ 日中シンクロ
明るくても暗くても常にストロボが発光します。帽子をかぶった人物撮影など、逆光以外で人物が暗くなってしまう時に使います。

低速シャッター
暗くてもストロボを発光させません。ストロボが使えない美術館や室内の照明を利用した撮影をしたいときに使います。

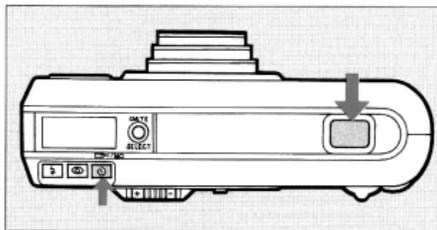
⚡ 低速シンクロ
夕景をバックにした人物撮影などで、人物にストロボを当てることで、夕景と人物をバランスよく撮影できます。

B バルブ
花火や夜景の撮影に使います。シャッターボタンを押している間シャッターが開き続けます。

⚡B バルブシンクロ
バルブ撮影でストロボを発光させます。夜景をバックにした人物撮影などに使います。

ボタン

セルフタイマー
自分自身も写真に写りたいときに使います。10秒後にシャッターが切れます。

リモコン
カメラから離れたところからシャッターを切ることができます。
リモコンのシャッターボタンを押すと3秒後にシャッターが切れます。

フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

1. 電源をONにして、セルフ/リモコンボタンを3秒以上押し続けると、表示パネルに ▶▶⊙ マークが表れて、途中巻き戻しモードになります。
2. セルフ/リモコンボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり 0 が点滅して知らせます。

日付や時刻の修正

1. DATE ボタンを3秒間押し続けると「年月日」表示の「年」とズームレバー表示 が点滅します。
2. DATE ボタンを一回押すごとに点滅表示が[年→月→日→時→分]の順に移動します。修正したい表示を点滅させてください。
3. ズームレバーを左右に回すと点滅している数値を変更することができます。右に回すと数値は進み、左に回すと戻ります。回し続けると約1秒後からは続けて変化します。
4. 修正後は、DATE ボタンを押して、「年月日」表示に戻して点滅をなくします。

※「分」表示の点滅状態で、DATE ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-04	東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル(私書箱240号)	☎03(3348)2941(代)
旭光学 東京サービスセンター	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地(土橋交差点交番並び)	☎03(3571)5621(代)
〃 札幌サービスセンター	〒060	札幌市中央区北10条西18丁目36番地 ペンタックス札幌ビル	☎011(612)3231(代)
〃 仙台サービスセンター	〒980	仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都会館	☎022(261)5681(代)
〃 新潟サービスセンター	〒951	新潟市本町通七番町1153番地 新潟本町通ビル	☎025(224)8391(代)
〃 横浜サービスセンター	〒231	横浜市中区不老町1丁目6番9号 横浜エクセレントⅤビル	☎045(681)8771(代)
〃 静岡サービスセンター	〒420	静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル	☎054(255)6308(代)
〃 名古屋サービスセンター	〒461	名古屋市東区泉1丁目19番8号	☎052(962)5331(代)
〃 金沢サービスセンター	〒920	金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル	☎0762(22)0501(代)
〃 大阪サービスセンター	〒542	大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎06(271)7996(代)
〃 広島サービスセンター	〒730	広島市中区大手町3丁目7番2号 大東京火災広島ビル	☎082(248)4321(代)
〃 福岡サービスセンター	〒810	福岡市博多区中洲中島町3番8号	☎092(281)6868(代)
〃 お客様相談室	〒104	東京都中央区銀座西8丁目10番地(土橋交差点交番並び)	☎03(3572)6479

※日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。
ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラムは年中無休です。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは下記ペンタックスファミリー事務局まで。

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号
三宅坂ヒル3F ☎03 (3580) 0336

旭光学工業株式会社
〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号
ペンタックス販売株式会社
〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号

56636

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。 05–9510